

1992年の地球サミットをきっかけとして温暖化をはじめとする地球環境問題が世界で話題になり始めた。そして、環境への影響を考えて、どう改善していくのかを示したものがISO14000つまり環境ISOである。

学校版環境ISOとは、環境ISOを受け、環境にやさしい学校づくりを生徒・教職員が話し合い、全校をあげて実践活動に取り組むことである。

本校では、学校版環境ISOの取組を以下のように実施している。

本校環境教育目標

身の回りの環境問題に関心をもち、環境に対する人々の責任と役割を理解し、環境保全活動に参加することを通して、環境問題の解決に取り組んでいこうとする意欲や態度を育む。

1 学校版環境ISO宣言について

本校は、昨年までも同様の目標を掲げて環境活動に取り組んできた。成果もあったが、全校生徒の中における環境ISOという言葉の意味の認知度は高くなく、主体的に環境問題の解決に取り組む意欲や態度に結びついていないのではないかという課題があった。そこで、今年度も昨年と同じ目標項目を設定した上で、生徒が、宣言内容をもとに、課題意識を持って主体的に動けるような取り組みを進めてきた。

宣言内容

私たちは 節電・節水、ゴミ削減、リサイクルなどについて、次のことに取り組めます。

【生徒】宣言項目	【職員】宣言項目・数値目標
1. [節電] ・蛍光灯や扇風機などは、使わないときにはスイッチを切ります。 2. [節水] ・掃除にはバケツを、うがい・歯磨きにはコップを使います。 3. [ゴミ削減・リサイクル] ・鉛筆や消しゴムは、最後まで使います。 ・用紙はゴミ箱に捨てず、回収箱に入れて資源回収します。	1. [節電] …学校全体として、昨年比2%減。 ・蛍光灯などは、使わないときには電気を消します。 ・エアコンは適正に使用します。 ・OA（情報）機器は、サーバーなど必要な物を除いて、電源を切って帰ります。 ・学校全体の電気使用量・料金は、月ごとに公表します。 2. [節水] …学校全体として、昨年比2%減。 ・掃除にはバケツを、うがい・歯磨きにはコップを使います。 ・学校全体の水道使用量・料金は、月ごとに公表します。 3. [ゴミ削減・リサイクル] ・用紙は、できる限りゴミにしません。裏面を利用したり、シュレッダー処理や回収箱で回収したりして再生を考えます。

2 行動の実際

(1) 具体的な行動内容

宣言を終えた後、生活環境委員会を中心に節電・節水についての行動を始めた。主な行動内容は次のとおりである。

ア 日常的に節電・節水の意識が高まるように呼び掛けたり、ポスターを作る。(写真1、2)

①移動教室、昼休み等は率先して電気を消す。電気が消えていることを確認してから行動する。

②扇風機は、暑いときはつけて良いが、昼休み等長い休み時間、掃除時間は消す。

③コップ・バケツが使えるように各教室にいくつ必要か数え、活用するように呼び掛けをする。

イ 紙のリサイクルについては、各学級及び職員室に回収ボックス(写真3)を作り、紙の分別を行う。

ウ 生活環境委員と協力し、5月から10月にかけて「緑のカーテン事業」に参加し、グリーンカーテン作りを行った。(写真4)

エ 環境教育の行事として、夏休みには剪定作業(写真5)や資源回収(写真6)を行っている。小学校と合同での実施であり、地域の婦人会・老人会の方々とも連携している。

オ 「日奈久小中合同クリーン作戦」として、小学校及び婦人会・老人会の方々とも協力し、清掃活動を行っている(写真7)。

カ 生活環境委員が計画し、昼休みの時間を利用して校内の落ち葉拾いを行うボランティア活動を実施した(写真8)。

(2) 行動の様子

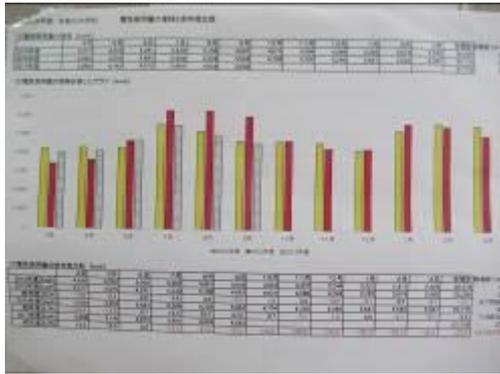


写真1 電力使用量の推移を示す掲示物
昨年との比較や推移を示した。



写真2 節電を呼び掛けるポスター
各教室や廊下などに掲示した。



写真3 教室のプリント回収箱とゴミ箱
段ボール箱ごと搬出する。



写真4 グリーンカーテン
3年教室前に設置した。



写真5 剪定作業の様子
生徒たちは安全な除草作業等を行った。



写真6 資源回収の様子
仕分けは小学校前で行った。



写真7 小中合同クリーン作戦の様子
各班ごとに地域を回り作業した。

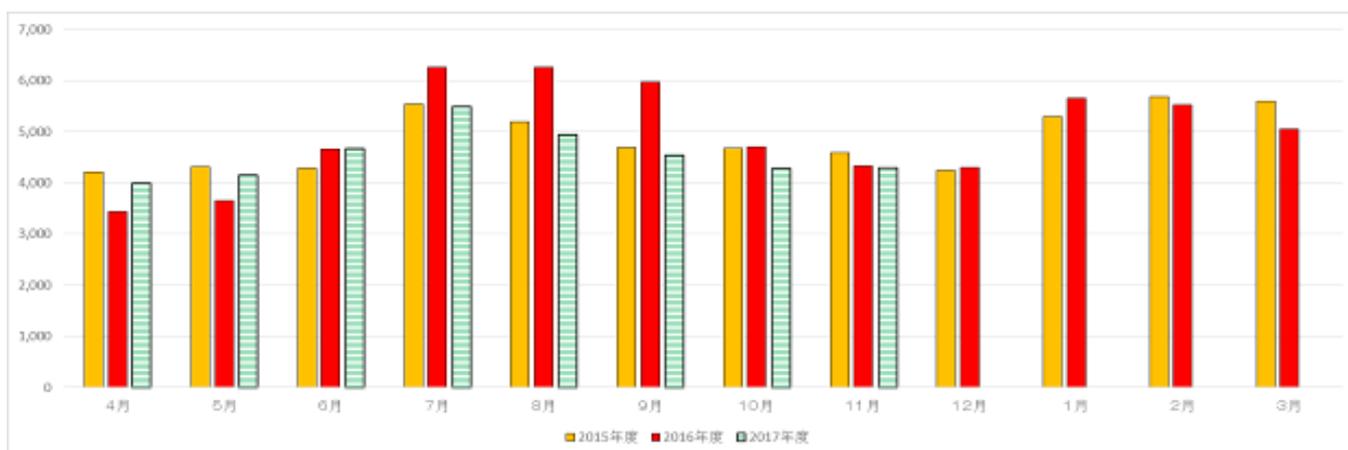


写真8 落ち葉拾いボランティアの様子
12月にグラウンド周辺などで実施した。

3 記録

(1) 電気使用量について (数値は当該月分を表す)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～11月計
2014年度 [kwh]	4,440	4,303	4,094	5,287	4,961	4,932	4,618	4,337	5,244	5,321	5,417	5,424	36,972
2015年度 [kwh]	4,217	4,310	4,291	5,530	5,198	4,687	4,673	4,589	4,246	5,285	5,674	5,590	37,495
2016年度 [kwh]	3,439	3,650	4,663	6,264	6,259	5,964	4,704	4,320	4,296	5,647	5,522	5,047	39,263
2017年度 [kwh]	3,996	4,142	4,673	5,491	4,934	4,543	4,277	4,296					36,352
前年度比 [%]	16.2	13.5	0.2	-12.3	-21.2	-23.8	-9.1	-0.6					-7.4



<考察>

今年度は昨年度と比較し、特に7月から9月の電力使用量が減少している。要因として、夏休み期間中のクーラーの使用の削減が考えられる。職員室でも朝はクーラーを付けないことがあり、効果が上がった。

4月から11月までの電力使用量は昨年度と比べて-7.4%となっており、夏場の削減が全体としても大きく影響を与え、年度目標の-2%も達成する見込みである。

(2) 生徒の活動の様子について

○ クリーン作戦の様子

- ・昨年度は天候不良でできなかったが、生活環境委員会を中心に積極的に準備から片付けまで頑張る姿が見られた。
- ・小学校との連携がこれまで課題となっていたため、各地区に向かう班をさらに細かく分け、小グループで中学生と小学生が関わり合う活動ができた。
- ・事前の小学校との打ち合わせは昼休みにグラウンドで行うことができ、隣接する学校としての良さを生かして活動できた。

○ 落ち葉拾いボランティアの様子

- ・昼休みに3日間の実施となったが、生活環境委員会の呼び掛けにより、毎回参加者は全校生徒の7割を超えていた。
- ・集めた袋の数は目標の20袋を大きく上回り37袋を達成した。このことから、生徒は「やって良かった」「たくさん集まって気持ち良かった」「忙しかったけれど参加して良かった」という感想を書き、達成感を感じている様子が見られた。

4 見直し (成果と課題)

節電については、昨年に比べて夏季の使用量が減少し、数値目標を大幅に達成するペースで取組を進めることができた。夏季のクーラーの使用がいかに電力量を上げるかということが分かったため、夏季は今後も重点的に節電に取り組む必要があると考えられる。しかし、節水においては使用量の計測が小学校と共有ということで、数値としては明らかにすることができていない。小中連携の取組をさらに活性化し、連携して取り組む体制を再度確認するようにしたい。

日奈久地区には、クリーン作戦や剪定作業など、小中が連携し、さらに地域と交流しながら環境を良くしていこうという取組が盛んに行われている。生徒も地域の方もそれが「当たり前」になっているところが良い伝統である。今年度は様々な取組の中で生徒が主体的に動く姿も多く見られた。今後も、達成感を味わわせることで、生徒の主体性を引き出し、地域の良さを生かした環境保全に積極的に努めていきたい。